

タウンミーティング（田野地区） 開催報告

- 日 時 令和元年 8 月 24 日（土） 午後 7 時半から 9 時まで
○場 所 田野公民館 1 階和室
○参加者 田野地区連合自治会長、長野区・北田野区西・田野上方区西・川根区自治会長、
田野地区老人クラブ会長、田野地区婦人会長、田野保育所長、田野小学校 PTA 会長、
田野小学校長、丹原東中学校 PTA 田野小校区長、丹原東中学校長、J A 周桑田野
支所長代理、西条市消防団田野分団

市長、経営戦略部長、丹原総合支所長、
市民協働推進課長、市民協働推進課 協働推進係長
シティプロモーション推進課長、シティプロモーション推進課 広聴係長
丹原総合支所総務課長、田野公民館長

- 傍聴者 21 人
○次第 1 開会
2 挨拶（田野地区連合自治会長）
3 挨拶（市長）
4 市の主要事業について《市提案》
（1）主要事業の説明（市長）
5 参加者自己紹介
6 地域課題
「これからの地域づくり」について《市提案》
「子ども達が夢を持てる地域・まちづくり」について《地域提案》
（1）課題等の経緯等内容説明
（2）意見交換
7 その他
8 まとめ・閉会
（1）まとめ（市長）
（2）挨拶（田野地区連合自治会長）

○会議録

1 挨拶

【田野地区連合自治会】

皆様こんばんは、お疲れのところ、また、足元の悪い中、田野地区タウンミーティングにご参加いただき感謝申し上げます。市長をはじめ市の関係者の皆様、田野地区の様々な団体の代表者の方にお集まりいただいている。それから、席が足りなくなるほど傍聴に来ている地域の方々等に改めてお礼申し上げます。

本日のタウンミーティングは、今後の田野地区をどうしていったらよいかという観点で、各種団体が抱えている様々な問題等を出していただき、少しでも解決に向かえるような時間になればありがたい。限られた時間であるが有意義な時間になればと思っている。特に後半部分について積極的にご意見を戦わせていただければありがたいので、よろしく願います。

【市長】

2 主要事業の説明 【市長】（参照別紙資料（1））

3 地域課題「これからの地域づくり」について

- （1）課題等の経緯等内容説明 【市民協働推進課】（参照別紙資料（2））
（2）意見交換 「子ども達が夢を持てる地域・まちづくり」について

【協働推進係長】

どんな田野にしていきたいかという理想や、あるべき姿があると思う。現状がどうなっているのか、その差を皆様と一緒に見出していきたい。時間が限られているので、田野の現状はどうか、何に困っているのかを皆様と私たちで共有する時間に出来たらと思う。

子どもたちが夢を持てる地域、街づくりについてという提案をいただいているが、田野の現状や困りごとは何か。

【田野地区連合自治会長】

今回は、子どもたちが夢を持てる地域、まちづくりというテーマで提案させていただいた。単位自治会だけの困りごとは話の広がりがないので、全員の方々が話せるようこのテーマにした。現状の課題をみると将来はないことを何となく感じるが、何かをやっていないといけない。その中で少子高齢化や人口が減ることについて一番に考えなければならないと思う。単純に人口を増やすにはどうしたらいいかという話だけでなく、どのようなことに取り組みれば少しでも夢を持てる明るい地域になるのかを考えていきたい。

田野にはまだまだ田舎のいい雰囲気がある。何かをやろうとした時、「じゃあ、ほんなら、よし」と言っただけで協力してもらえ。そういう所を上手に残していきたい。何もしていないのは結果的に後退しているのと同じことなので、出来ることを取り組む。それが成功するか、失敗するかは、わからないが、何かをやるのが一番のポイントだと思う。細かい問題点は、それぞれの代表の方が言っただけだと思うので今日は、地域づくりをする第一歩になってくれればありがたい。

【協働推進係長】

子どもの夢、子どもというキーワードが出たが、子育て世代として現状はいかがか。

【参加者】

少子化問題は、非常にしんどい所である。少子化により PTA 会費も年々下がっている。小学校ではそこまで問題になっていないが、中学校になると部活に回す文化体育教育費がかかる。もし部活動で成績を残し、県大会などに行けば、バスを出す費用も必要になる。切迫した状態が今続いているので、少子化問題が一番の課題ではないかと思う。PTA として色々な人にどういう問題があるかを聞くと「子どもがおらんね」という話が一番に出る。そこを何か田野で出来ることがあれば非常にいい。

【協働推進係長】

子どもと部活というお話が出たが、中学校はどうか。

【参加者】

丹原東中学校は今、「明日も行きたい学校」というのを、目指す学校像としてキャッチフレーズにしている。

生徒数の沿革を調べると、昭和 37 年に田野中、徳田中、丹原中学が合併した当初は生徒数が 1000 名いたが、平成元年になってその数は半減した。それから 10 年単位で 100 名ずつ減っており、平成 10 年は 400 名、平成 20 年は 300 名、そして昨年度の平成 30 年度 200 名をきり、本年度は 187 名である。そのような現状で、非常に部活の遠征費なども厳しい状況である。今年度、吹奏楽部が県代表になり、四国大会に行ってきた。今年の会場は松山だったが 20 名弱の生徒と、楽器も運ばなければならないのでバス 1 台を借りきった。市の補助も雀の涙程頂いたが、とてもじゃないが間に合わない。また、剣道部の女子も四国ベスト 8 に入った。少子化の中でも子どもたちは、一生懸命頑張っている。

自分達でも何とかしないといけないということで、今日は古紙回収の紙を配らせてもらった。明日、本校親子が奉仕作業をやるので、家庭にある古紙を持ってきて欲しいと地域の方にも以前から呼びかけさせていただいていた。結構な地域の方が持ってきてくれている。

もう一つ、これは本校だけのことではないが、職場体験学習を中学校でやっており、昨年までは本校も 2 日間いろんな職場に子どもたちがおじゃまして、職業体験をさせていただいていた。これがトップダウンで県全体の取り組みとなり、県内全ての中学校が 5 日間することになり、今年度トライアルで 2 年生が校区内外 37 か所に行かせていただき、その中には農業体験や、田野小学校、幼稚園、保育所、田野駐在所にもお世話になった。病院関係や小売

店、西条・東予・丹原図書館、西消防署、西条西警察署等いろんなところに行かせていただいたが、5日間というのは本当に迷惑をかけるばかりで本当に心苦しいがなかなか難しい。こちらからも発信するので、田野校区で子ども達が学ぶ場、職場体験の場などを提供していただければ大変ありがたい。

【協働推進係長】

子どもが少なくなっているということだが、田野小学校の現場としてはどうか。

【参加者】

西条の小学校に限らずだが、地域の方に来ていただき活動することは沢山ある。藁を使ってわら細工をしていただいたり、野菜作りについて教えていただいたり、色々な関わりを持ってやっている。学校としては、今までの経験からどのような方が地域にいるのかわかるが、もっといろんな知識や優れた技術などを持っている方がいると思うので、ネットワークでそういった地域の人材を紹介していただき、そういった方がいることがわかる仕組みがあると、もっとつながりが持てると思う。

【協働推進係長】

保育所ではどうか。

【参加者】

田野はとても自然豊かで地域の人も暖かいと皆さん言っていたが、保育所の運営をする中でも本当に感じる。田野は農園が多く、イチゴや柿やミカンやサツマイモをいつでも取りにおいでと、よく声をかけていただく。ジャガイモの植え付けや収穫体験をさせていただいたり、トラクターに乗せていただいたりして子どもたちも大喜びしている。田野地区に住んでいても一般家庭ではできないような体験をさせていただけるので保護者の方も喜んでいて。スプレーバラも盛んで出荷量が全国トップクラスということで、フラワーアレンジメントも毎年させていただいている。幼児期の子どもたちにとって五感を刺激する体験はとても大事なことで成長にとっては欠かすことができない。その機会を与えてくれていることは本当に素晴らしい。

ある方は東京に長い間住んでいたが、土に関わる機会がなく、ここでは子育てはできないと思い、帰ってきて田野のアスパラ農家に嫁いで子育てをしている。

別の方は3人の子育て真っ最中で、この子たちが大きくなった時に田野に留まるか出ていくかはわからないが、私はここが好きと言っていた。子どもが小さい間は地域の行事にも参加できなかったが、今は少しずつ参加して横のつながりもできてとても楽しいという話を聞いた。田野が好きなお母さんに育てられた子はきっと田野が好きな人になるだろうと思った。

田野保育所には41名の子どもがおり、その中で田野に住んでいる子は27人だがその半数が3人兄弟である。そういったことから、すごく子育てしやすいところなんだと改めて感じる。

私は禎瑞から毎日通っていて、禎瑞もいいところだが、禎瑞にはない観光農園など魅力がいっぱいある。そのような田野の素晴らしい魅力をずっと引き継いでほしい。

子育て環境の充実について保護者の声を聴いたが「夏休み中、親が仕事に出かけた後は家の中でゲームをすることが多い」「近くに気軽に遊べる公園や児童館があるとよい」「農家の繁忙期などに日曜保育があればよい」「夜道が暗いので街灯を増やしてほしい」「小中学生も減りPTAの負担も増えてくるので合併もありかなと考える」「近くにスーパーがあればよい」という声があった。

【協働推進係長】

婦人会は、地域の行事に関わることがたくさんあると思う。他の地域では婦人会が解散したとか存続が厳しいという話を聞くが、田野の現状はどうか。

【参加者】

役員になってみてわかったが、いろいろと出かけることが多い。田野の中で活動するだけでなく、周桑郡、西条市、県の用事に出かけていかななくてはならないので、若い人に引き継いでほしいでも若い方は仕事をしていて時間が取れない。それで役員は高齢化し、やることも多いので役員のなり手がおらず、西川根、東川根、新出の3か所は婦人会がなくなった。

やはり婦人会がなくなれば敬老会などで困ることもあるので、みんなが入っていればもう少し活動しやすい。どうやって役員を選んでいくか、やめた人をいかにして復活してもらうかが課題になっている。

【協働推進係長】

市内の老人クラブが凄い勢いで解散が進んでいるが、田野の老人クラブの現状はどうか。

【参加者】

老人クラブも今、婦人会から出た話に似たような事が多い。近隣の各クラブの中でも、幾つか消えてしまった。私自身もかなりの高齢で、もう引退したいが後を引き継いでくれる人がいない。もういっそ潰そうと思ったが、一旦潰してしまったら復活は望めない。潰すのは違う気がしてがんばっているが、後1年が限界だと思っている。幸い、後を引き継いでくれるような人が出そうな気もするので、何とか維持できるのではないかと。なかなか若い人、動ける人は田んぼや仕事など色々あり出られない。結局非常に苦しい状態の維持を続けている。

活動は婦人会に協力していただき、しめ縄作りや餅つき大会などをやっている。小学校単位なのでかなりの子ども達が集まるが、もうひとつ小さい単位の地区になると、ほとんど子どもがいない。子どもも1~2人では面白くないので参加せず、だんだん人が消滅していく。それで、うちの地域は数年前から、とうとうさんを正月にやっているが、立てる場所もなくなってしまったので、代わりに集会所で何かやろうと計画しているが、年寄りが10人程寄るだけで子どもが1人も来ないというのが現状で、困っている。我々の取り組みが悪かったのかもしれないが、小学校単位ぐらいの大きさでやれば少しは集まるのではないかと。子どもが集まれば賑やかになるから少しは楽しくなるのではと思う。小さな地域の中での集まりが非常に難しくなっている現状である。

【協働推進係長】

老人クラブも婦人会も厳しくなってきたという状況だが、自治会はどうか。先ほど地域の伝統とかお祭りとか大事にしていきたいという話もあったと思うが、地域で開催している色々な行事、お祭りの運営など、現在は特に問題なくできているか。

【参加者】

神輿を担ぐ人は高齢化している。去年はほぼ全員が60代や70代の人で私より年の上の人が担いでいる。40代30代は何処へ行ったのか。それが現状である。だから他の地区から応援を要請しなければならないが、神輿と一緒に奴や獅子をやる人らもやっぱりある程度歳がいて、その子どもにしても同じ年代は出て行っている。若い人が何人残っているか、若い人が残らないのでは子どもの数も増えない。逆に言うと今の中学生・高校生が外へ出て行かないような、取り組みも考えないと後退し、減少していくだけではないかと思う。

祭りは今年来年という目先だけであれば応援は可能だが、その後続けるということ踏まえて考えないと、今の子どもに夢を与えるのではなく、今の二十歳代の者にもそういうふうな参加出来るような夢を与えないと、という気持ちはある。

【協働推進係長】

以前、地域の行事が結構しんどくなってきたという話もあったと思うがどうか。

【参加者】

それぞれ地域の役を引き受けた時点で、次の人はいるのか、いろんな事で大変というのが実感。人口減少うんぬんと言うと、今日ニュースで、東京のある区で人口減少の解決策として、地域の人が自慢に出来る事、誇りに出来る事をやろうと、学校給食日本一おいしい所ということで取り組んでいた。その結果はなかったが、そこへ転入してきた人が「日本一うまい給食があるから来た」と言っていた。その地域の人が自慢でき、誇りに思えることって面白いなと感じた。出ていく人を他所へ行くなと言って、捕まえることは出来ないかもしれないが、地域でそんな色んなものをちょっとでもしたら他所からも入ってくるし、地域の人もここでがんばれて楽しくできるのではないかと希望が生まれてくるのかなと感じた。具体的なことは解からないが。

【協働推進係長】

JA周桑では今日も賑やかにお祭りを支所でやっていたが、民間企業の中では地域とつなが

りがすごく深いと思うが、民間の立場から田野をどう思うか。

【参加者】

地域の皆さんと接する機会も多いが、非常に暖かい。農業という観点から言うと、この田野地区は気候にも恵まれ、多種多品目な農業生産地域。そういうことが子ども達にも根付いていると思うが、先を見ると、担い手不足、人口減少などなかなか厳しい課題が山積している。そういう中で、だんだんと子どもたちが農業に接する機会が減ってきているのが現状だと思うので、地元の方に体験事業や接する機会を増やしていただいている。この田野地区の良い所を少しでも伸ばしてこれからの地域づくりにつなげていければと思う。

最初に自己紹介カードをいただいたが、すごくいいと思った。例えばこれを今の子どもたちに投げかけたら「田野の好きなところはどんなところですか？」と。ひょっとしたら我々が思っている理想やあるべき姿と、子どもたちが思っているところにギャップがあるかと思う。そういう視点でも、捉えて行ってそこに向かって色々話をしたらいいと思う。

【協働推進係長】

先程から横のつながりと地域の関わりといった話があったと思うが、消防団も地域との関わりが多いと思うのだが、今の田野の現状はどうか。

【参加者】

消防団自体も高齢化していて、辞められる方はいるが新しい若い方がなかなか入って来ないので欠員が出ている。また、名簿上はある程度いるが、なかなか活動出来ない団員もいるので、災害が起こった時は非常に厳しいのではないかな。これからもっと自主防災組織等と連携していく必要があると思う。

【協働推進係長】

自治会の方だと消防団との連携やつながりは普段どういう活動をされているのか。

【参加者】

高松では例えば台風がきて警報が出たとき、消防団が詰め所で待機している。そういう時に我々も廻って行って危ない所の情報を聞いている。以前、川根の山の方にある池が切れそうといった話があったので皆で行ってみた。とにかく消防団がどんな対応しているか確認し、一緒になって動いている。

【協働推進係長】

防災以外でも自治会が一番大きな地域組織だと思うが、他の団体との連携やつながりなど普段はどうか。

【参加者】

部落の中にある、組織や団体の連絡調整が多い。

何かをしようとしたら必ずお金を考える。地域づくりのプランを作り実行する為にはまず人や金、リーダーが必要。この三つについて、人は自治会なり地域が提供するが、リーダーと金は市でもらわないと、自治会側では出来ない。そこの辺りを市はどのように受け止めているのか。

「人生の楽園」いう番組をよく見るが、退職したがまだ元気な都会の人は田舎に住みたいという需要が結構ある。それを供給すれば人が入ってくる。その子や孫も入ってくる。だからその需要を上手く取り入れたらいいのではないかな。

田野地区は空き家が結構多い。一戸当たりの敷地も広く、庭や畑が付いている家が多いので、そういう家をいくつかピックアップして、都会の人を呼ぶ。小銭を持った人、有用な情報を持っている人はお金を使ってくれるし、その有用な情報を使って新規で何か事業をしてくれるので、空き家を有効に活用すれば少しでもいい方向に行くのではないかな。

もう一つテレビで、年を取って不動産を取得するのは、いずれは死ぬのだから都会にいる子どもの相続の問題になる。田舎の土地は財産ではなく負債になる可能性があるから不動産は持たない方がいいと言っていた。そうすると、不動産は持ちたくないが田舎で住みたい人、自分の持っている長い経験を生かして地域に何か役立てたい人、自分の持っている年金からお金を地域に落としたいという人、そういった人を上手く使えばいいと思う。

私もここで生まれて育ち、子どもも育て終わったが、今までの生活と違う場所で生活して

みたいという欲望がある。でも土地を買ってまで住みたいとは思わない。そういう人が結構いると思うので、その辺りを地域づくりの方策として考えたらいいのではないか。

【参加者】

農地を幾らぐらいで売り買いしているのか。法律の問題があり誰にでもというわけにいかないが、もし出来るなら一反が例えば50万円か100万円くらいで買え、そこへ家を建て、残りの広い所を農地として使ってもらおう。都会の人にしたら一反を100万円以内で買えることはまず考えられないから、もの凄い魅力ではないか。半分の広さでもいいがそういった団地をつくり、街から来てもらう。特区などに設定しないと今のままでは簡単には出来ないと思うが、今のままで何もしなければ絶対に人は他所から来ない。何か魅力ある方策で人を呼んでこないといけない。

【市長】

西条市は今、移住に力を入れている。人口の自然増は難しく、社会増を狙っている。そして、ターゲットを若者世代、子育て世代に絞り、関西圏は少し手が伸びていないが、関東圏ではローカル関東で西条市を紹介してもらっている。シティプロモーションをかけることにより西条市が認知をされていき、西条に行ってみようという方を増やしている。

それぞれのニーズに合った完全オーダーメイド型の無料移住体験ツアーもしている。ICT教育が進んでいるから徳田小学校に行きたいという人もいる。先ほどもヒントをいただいたが、給食の話で、そういった魅力をしっかり売ることが出来るかどうか。チャレンジをしている。都会では、マンションを買ったら家庭菜園がついてくるといって売り出しているところもあるが、農地については農地中間管理機構に頼みながらの話になる。

地域づくりには財源と人がいるのは当たり前だと思っている。行政がプランを作っていくところからサポートをしていかなければならない。つまり協働のまちづくりということでやっていく。これから話し合いを進めていく中でプランを提示していきたい。

西条市の特徴として、15歳から35歳までの幅が他の町より少ない。囲い込みはしたいが、経験を積むという意味でも一回は出て行ってもいいと思う。その子たちが帰ってこられるような市にしないでほしいし、ジュニア世代からしっかり町に誇りと愛着を持ってもらえるように教育しなければならない。そういうところが久妙寺は上手い。女の子が旦那を連れて帰ってくる。

ここの良さをしっかり伝え、渡していくことが大事である。もう時間はあまり無い。よく丹原の人は「今がええから、まあそんなこと言わんでもええがね」と言うが、やはり挑戦して、本気で臨んでいかないといけない。先ほどが言われていたが、潰すと復活はない。だから、潰さないように皆様に少し迷惑をかけるが、エネルギーをかけていただきたい。行政も一緒になってやっていく。そうしなければ、田野地域が潰れてしまうというくらいの気持ちでいるので、子どもたちにいい雰囲気伝えていくことが今を生きる私たちの責任だと思う。

【参加者】

川根地区は何年か前まで地区のお祭りや運動会をしていた。その頃は川根に住んでいない子どもたちも連れきたりして、結構な人数が集まっていた。それが中止になり、とうどさんを始めたが、結構な子どもが集まってくる。地区の子どもは非常に少ない。特に川根は徳田校区と田野校区があり、普段は行事をしないと行き来が無い。だから、何かしないと、ということで取り組んでいる。川根は小さな部落だが子育てをしている移住者が結構いるので、にぎやかなところもある。

【協働推進係長】

地域の中の交流はすごく大事なことだと思う。

【参加者】

職業体験は5日間連続しているのか。2日と3日など分けてすることはできないのか。

【参加者】

本来は5日間連続だが、5日続けてというのが難しい事業所が多いので、分けて別々の事業所に行くこともある。5日間行くことにより最後の方は事務所に馴染んで仕事が出来るようにする狙いがあるが。

【協働推進係長】

時間もオーバーしており、今日の会だけで話し合いを進めていくのは難しいところがあると思うので、今日は一旦区切らせていただく。

4 その他 地区における課題及び要望【シティプロモーション推進課長】(参照別紙資料(3))

5 まとめ・閉会

【市長】

私も昭和38年にこの地で生まれて5歳までここで育ち、色々行ったりして平成18年に帰って来た。やはり生まれた所は、愛着を感じている。この田野地区がこれから何とか維持をしていくためにはどうしたらいいか、皆様でアイデアを出し合いながら、工夫をしながら、一緒に地域づくりをしていきたい。

私たちは担当課を中心に横の連携を図りながら、しっかり皆様をサポートしていく。即解決という話にはならないが、エネルギーをいただきながらこの地域づくりに参画をしていただきたい。本日は感謝申し上げます。

【田野地区連合自治会】

今日は貴重な意見を聞かせていただいた。今日は時間の関係もあり、聞いただけになったが色々な人が出てきたら自分の考えの範疇でないとところから答えが出てきたりするの、今度をもっと討論がいきあう様な機会を持たたら更にもっといいと思う。今日は出だしの一歩ということで二回目以降そういう機会を設定し、それぞれの問題解決に向けてがんばっていかれたらと思っている。今日は感謝申し上げます。

(閉会)

<タウンミーティングの様子>

